

令和7年度「わたしの主張岩手県大会」審査委員長講評

(株)岩手日報社執行役員論説委員長 郷右近 勤

講評を述べさせていただきます。

まずは今日私の主張を発表された17人のみなさん大変お疲れさまでした。

ここに居られる皆さんは、主張するということがいかに大変か、ここに至るまでの努力を通じてよく理解されたであろうと思います。大勢の前で自分の意見を述べるということは、とても勇気のいることです。論を展開する上では、自分の失敗であるとか、つらい経験であるとか、あるいは自分の弱みであるとか、そういうものをみんなの前でさらけ出さなければならない場合もあります。そして、客観的な事実に基づいて語り、何かを提言する。その上で聞く人に共感してもらうことがとても大事になります。自らの主張に説得力を持たせなければなりません。説得力のない主張、テーマには誰も耳を傾けてはくれません。そして、主張するということは責任も伴うものです。さらに言えば、身の回りで起きた出来事を語る場合でも、それだけにとどまることなく学校や地域、あるいは国、そして世界に対する普遍的な主張にしなければなりません。その点で、地区大会の代表であるみなさんの主張は、胸を打たれるものが多く、聞く人を共感させ、説得力を感じました。

表現、態度も素晴らしいもので、実際、審査ではあまり差が付きませんでした。特に最優秀賞、優秀賞の決定までには、審査員の間でかなりの議論となりました。それだけ甲乙つけがたいものがありました。

レベルが高い主張の多い中で、最優秀賞に選ばれた伊香成俊さん。韓国人の父、日本人の母を持ち、中国で暮らして、日本語を一言も話せない。けれど、今は応援団長を務めておられます。そして、18歳になったら日本と韓国のどちらかの国籍をとるか、そういう葛藤にもかられている。歴史をめぐる日本と韓国の対立、そういったものにも踏み込んで、過去は変えられない、けれども未来は変えられると訴えました。主張に深みと訴える力があり、態度も素晴らしく聞く人に大きな感銘を与えました。

優秀賞の藤村明穂さんは、沿岸育ちでありながら、震災のことを伝聞で語る後ろめたさがあつたといいます。けれども大船渡の林野火災での募金活動を通じて、初めて自分の境遇を受け入れることができたと言いました。

同じく優秀賞の柴田咲来さんは、二戸祭りに参加したことを機に、地域の祭りが各地で存続の危機にたっていることを指摘し、地域の宝を守ると訴えました。

それぞれ、論旨が明快で、表現力、態度、共に高い評価が与えられました。

今回の県大会では、多岐にわたるテーマでの主張が繰り広げられました。大船渡市の林野火災、東日本大震災といった災害、防災に関すること、いじめの問題、あるいは障がい者差別や外国人との共生について、あるいは地域の祭りや学校の決まり、自らのアレルギーについて語った方もいました。どれをとっても大事な問題ですし、周りへの感謝の思い、そういったものも感じられて、興味深く聞かせていただきました。

冒頭の話に戻りますけれど、主張することは非常に大変ですし、恥ずかしさもあります。困難も伴います。でも、私たちは主張しなければなりません。なぜ、そうしなければならないのでしょうか。

それは、主張することによって、社会や組織をより良いものに変えていけるからです。

みなさんも社会に出れば絶えず自分の意見、提言を出すよう求められます。その時、組織や社会をより良いものにしようと思えば、説得力を持って、聞く人を共感させなければなりません。主張というと自分の意見を通すという強い言葉にも聞こえますけども、決して独りよがりにならず、当然ながら相手の立場を尊重しなければならない。社会の営みはそういうことの連続です。ですから主張をするということは、社会で生きて行く上で欠かせないものになります。みなさんは今回そのための貴重な訓練をされたと思います。この大切な経験をこれからの長い人生に生かしていただきたい。そういう願いを込めて講評を終わらせていただきます。今日はお疲れ様でした。ありがとうございました。